

現状と問題点、第21回日本ペストロジ  
学会大会「害虫対策におけるIPMシンポ  
ジウム」、2005年11月10日

験記、Pest Control Tokyo No. 49 p4-45  
(2005.7)

H 知的財産権の出願・登録状況 なし

2 平尾 素一、サンフランシスコ市のIPM体

厚生労働科学研究費補助金（健康科学総合研究事業）

分担研究報告書

ねずみ害虫等のセンサス法研究に関する文献リスト（16年度補遺）

分担研究者 田中生男 （財）日本環境衛生センター  
研究協力者 緒方一喜 （財）日本環境衛生センター

[ねずみ]

1. 田中英雄・生沢満寿夫・杉山博（1952）鼠族の統計学的考察。衛生動物 3（3・4）138.
2. 田中英雄・生沢満寿夫・杉山博（1953）鼠族の統計学的考察（II）鼠族の Population について（続報）。衛生動物 4（1・2）19-20.
3. 藤戸貞男・平岡興二・武衛和雄・津村芳郎・杉山博（1953）家鼠の Population 算定と殺鼠効果について [I]。衛生動物 4（1・2）20.
4. 田中亮（1953）殺鼠による自然個体群減少推定の修正法について。衛生動物 4（補遺）186-193.
5. 田中英雄・生沢満寿夫・杉山博（1953）鼠族の生息数推定に関する推計学的研究の概要。衛生動物 4（補遺）200-208.
6. 田中亮（1957）家鼠の棲息数について—その通俗的知識の科学的検討。生活と環境 2（12）16-17.
7. 田中英雄（1957）イエネズミの棲息数算定とその駆除対策。生活と環境 2（12）33-38.
8. 長田泰博・佐藤金作・田中英文（1958）餌の摂取量に依るネズミの棲息状況推定について。ネズミの生態と駆除に関する研究。第2報。衛生動物 9（1）33-39.
9. 田中亮（1959）記号放逐法によるネズミ毒殺率算定実例の再分析と批判。衛生動物 10（2）86.
10. 伊藤猛夫・森川国康・越智修・矢野昭三（1963）示説。ネズミの生息個体数の除去法センサスによる推定の検討。衛生動物 14（2）127-128.
11. 田中亮（1964）四国西南海岸地方の鼠禍の現状とドブネズミセンサス法の問題批判。

衛生動物 15（2）116-117.

12. 伊戸泰博・大塩行夫・池内まき子・古谷英夫（1967）養鶏農家におけるネズミ個体数の推定。衛生動物 18（2・3）155.
13. 田中亮（1982）ネズミ類の個体群密度推定研究における諸問題。衛生動物 33（2）169.
14. 高田季久・井関基弘・木俣勲・生沢万寿夫・米本申一・西尾恭好・北島暁・金森正臣・斉藤実（1983）クマネズミの生態 3。生息数の推定について。衛生動物 34（2）156.
15. 矢部辰男・谷川力（1998）家ネズミ類の足取りを調べるための蛍光顔料含有餌。ペス学会誌 13（1）13-14.
16. 黒澤秀行・谷川力・謝林・叶玉喜・石坂悟・日佐和夫・中村寛志・岡本秀俊（1998）センサーを用いたクマネズミの生息数推定に関する室内実験—センサーカウント数とネズミ密度の関係。環動昆 19（9）140-147.
17. 谷川力・秋元智博・矢部辰男（2003）蛍光顔料餌を用いたクマネズミの足取り調査。ペストロジー学会誌 18（1）35-37.

[ゴキブリ]

1. 緒方一喜・三原実（1962）チャバネゴキブリに対するいわゆる“バタートラップ”法の検討。衛生動物 13（4）262-267.
2. 斉藤一三（1975）各種ゴキブリトラップの採集能力の比較。環境衛生 22（8・9）31-34.
3. 須藤千春（1979）ゴキブリに対する殺虫剤の効果判定法。衛生動物 30（1）79.
4. 須藤千春（1979）チャバネゴキブリに対する殺虫剤の効果判定法について。衛生動物 30（2）93-97.

5. 浦辺研一・藤本義典 (1982) マーキング法によるチャバネゴキブリとクロゴキブリの移動と生息数の推定。衛生動物 33 (3) 292.
6. 菊屋奈良義 (1982) 大分県におけるゴキブリ類の建造物内分布状況と食品衛生管理状態指標性について。家屋害虫 Nos.13・14 : 69-77.
7. 菊屋奈良義 (1984) 作業環境におけるゴキブリの生息状況。家屋害虫 Nos.21・22 : 21-47.
8. 谷寿一 (1984) ゴキブリ防除とその調査。環境管理 2 (5) 18-23.
9. 浦辺研一・藤本義典 (1984) マーキング法によるゴキブリの移動と生息数の推定 (2)。衛生動物 35 (2) 192.
10. 浦辺研一・藤本義典 (1985) マーキング法によるゴキブリの移動と生息数の推定 (3)。衛生動物 36 (2) 167.
11. 浦辺研一・服部昭二 (1986) マーキング法によるゴキブリの移動と生息数の推定 (4)。衛生動物 37 (2) 171.
12. 浦辺研一 (1986) 標識再捕獲法によるゴキブリ調査。環境管理 4 (6) 9-14.
13. 松崎佐和子 (1986) ゴキブリ用トラップの捕獲効率に関する一考察。生活と環境 31 (5) 76-78.
14. 浦辺研一 (1987) 試験容器内におけるチャバネゴキブリ成虫の餌トラップへの反応。衛生動物 38 (2) 131.
15. 広瀬恵子・金山彰宏 (1988) ゴキブリの殺虫剤実地試験における粘着トラップの捕獲効率。衛生動物 39 (2) 201.
16. 池本孝哉・浦辺研一・渋谷敏朗 (1988) 1回マーク放逐、多回捕獲による個体群パラメータの推定法：単位期間の終わりに一定の時間、捕獲サンプリングする場合。衛生動物 39 (2) 202.
17. 山口貢・元木貢・伊藤弘文 (1989) 飲食ビルのゴキブリに対する指数管理の事例。ペストロジー学会誌 4 (1) 32—35.
18. 廣瀬恵子・金山彰宏 (1989) ゴキブリ用粘着式トラップの捕獲効率。環境管理技術 4 : 209-212.
19. 公文堅一・大野公也 (1991) 棲息調査を中心としたゴキブリ防除。環境管理 9 (1) 24-27.
20. 元木貢・近藤昇・土谷武彦・上戸彰 (1991) 指数管理によるビルの害虫防除事例。環境管理 9 (3) 26-30.
21. 浦辺研一・仲澤清明 (1991) 試験容器内におけるチャバネゴキブリ成虫の餌トラップへの反応。埼玉衛研所報、25号 167-171.
22. 中村正聡・元木貢・田中生男・橋本知幸・水谷澄 (1993) チャバネゴキブリの生息調査法の検討。ペストロジー学会誌 8(1) 42-44.
23. 伊藤弘文・八木秀蔵・金沢良浩・元木貢 (1994) 飲食店舗におけるゴキブリ指数と出没感との関係。衛生動物 45 (2) 219.
24. 金山彰宏・小曾根恵子 (1997) チャバネゴキブリの潜伏と行動。ペストロジー学会誌 12 (1) 9-13.
25. 平尾素一 (1997) 性フェロモン Pheromon-B によるワモンゴキブリ (*Periplaneta Americana* L) の早期探知。ペストロジー学会誌 12 (1) 21-25.
26. 小曾根恵子・金山彰宏 (2001) 現場におけるチャバネゴキブリ生息調査法に関する一考察。ペストロジー学会誌 16 (1) 30-35.
27. 辻英明・河村由起子・山内章史 (2001) 実地のゴキブリ捕獲指数に及ぼす調査用粘着トラップ数の影響。ペストロジー学会誌 16 (2) 101-105.
28. 辻英明・立岩一恵 (2002a) ゴキブリ捕獲数に対する粘着トラップの長さ誘引餌の影響。家屋害虫 24 : 9-15.
29. 辻英明・立岩一恵 (2002b) 粘着トラップ上のベイト食物に対するチャバネゴキブリ、*Blattella germanica* (Linnaeus) の反応。衛生動物 53 (4) 213-218.
30. 辻英明・立岩一恵 (2002c) 粘着トラップ上のベイトに対するチャバネゴキブリの反応。衛生動物 53 (補遺) 52.
31. 辻英明・菅野格郎・中根佳子・片山淳一郎

- (2003a) ゴキブリ用無色透明粘着トラップの実用性。ペストロジー学会誌 18 (1) 13-17.
32. 辻英明 (2003b) ゴキブリ用粘着トラップの入り口の状態と捕獲効率。環動昆 14 : 119-122.
33. 金山彰宏・小曾根恵子 (2004) ゴキブリ調査法の検討。建築物におけるねずみ・害虫等の対策に関する研究報告書平 15 年度。74-78.

[蚊]

1. 野村健一 (1943) 本邦内地に於けるシナハマダラカの発生地に関する調査 (1) . 資源科学研彙報 3 : 3—6 2.
2. 山口左仲・稲臣成一・木村道也 (1951) 岡山市に於ける 1951 年度日本脳炎流行と蚊の灯火採集成績に就いて。衛生動物 2 (2・3) 66-67.
3. 竹田植人・栗原毅・鈴木猛・佐々学・三浦昭子・田中英文 (1962) ドライアイスと蚊帳を用いた蚊の採集方法。衛生動物 13 (1) 31-35.
4. 栗原毅・佐々学・O.Dhamvanij (1965) Sumithion 散布のネッタイエカに対する駆除効果の Box Trap 法による観察。衛生動物 16 (3) 239-243.
5. 加藤陸奥雄・石井孝・渡辺孝男・吉田勝一・矢島孝昭 (1966) 畜舎用蚊トラップとドライアイストラップでとらえた蚊個体群の種類構成と日周活動の比較。衛生動物 17 (2) 133.
6. 加藤陸奥雄・石井孝・吉田勝一・渡辺孝男 (1966) 新しい蚊採集用ドライアイストラップ。衛生動物 17 (2) 83-88.
7. 矢島孝昭・加藤陸奥雄・石井孝・吉田勝一・渡辺孝男 (1966) 畜舎用蚊トラップとドライアイス・トラップでとらえた蚊個体群の physiological age の季節変化。衛生動物 17 (2) 147-148.
8. 上本騏一・戸板健一 (1968) コガタアカイエカ生息数の増減の推定方法。衛生動物 19 (2) 111.
9. 和田義人・茂木幹義 (1970) 水田の蚊幼虫密度調査における逐次抽出法の適用。衛生動物 21 (2) 123.
10. 石井孝・前田理・竹之熊国八・唐牛良明 (1971) 加藤式トラップで採集された蚊と豚舎内で採集された蚊の個体数の比較。衛生動物 22 (4) 237.
11. 前田理・竹之熊国八・唐牛良明・石井孝 (1971) 豚舎内で採集したコガタアカイエカ個体数のトラップ間変動と日変動についての検討。衛生動物 22 (4) 238.
12. 園田浩 (1972) Light trap 採集成績による蚊個体群変動の一推定方法。衛生動物 23 (4) 290.
13. 栗原毅 (1972) 昼間屋内に休止するネッタイエカの分布と密度の推定法。衛生動物 23 (4) 312.
14. 池本孝哉 (1973) 水田に生息する蚊幼虫の全数推定のためのサンプリング。衛生動物 24 (4) 310.
15. 森谷清樹 (1974) オビ・トラップ (Ovitrap) 法による神奈川県下の蚊類の季節消長 (1) 鎌倉市内住宅地における比較。衛生動物 25 (3) 237-244.
16. 森谷清樹・矢部辰男・原田文雄 (1976) オビトラップ法による神奈川県下の蚊個体群調査 (5) CDC ミニライトトラップとの成績比較。衛生動物 27 (1) 5.
17. 石井孝 (1979) 重回帰式から推定した消長曲線と実際の消長曲線との比較—ライトトラップで採集したアカイエカの場合—。衛生動物 30 (1) 13.
18. 茂木幹義・岡沢孝雄 (1982) 水田におけるシナハマダラカの棲息数推定法の検定。衛生動物 33 (2) 177.
19. 池本孝哉・和田義人・高橋正和・栗原毅 (1983) 記号放逐法によるヒトスジシマカの生態に関する研究 3. 成虫の密度と日生存率。衛生動物 34 (2) 115.
20. 池庄司敏明・葉漢興 (1987) 音響トラップによるネッタイエカ個体群の監視と化学不妊化。衛生動物 38 (2) 146.

21. 池庄司敏明・上宮健吉 (1989) 蚊を高エネルギーに誘引する音響ポリエチレンシートトラップ。衛生動物 40 (2) 152.
  22. 神田鍊蔵 (1989) 衛生害虫防除のニューフロンティア 5。蚊の音響に対する応答と分類群固有羽音周波数。衛生動物 40 (3) 226.
  23. 速水鋭一・曾田貞滋・茂木幹義 (1989) 広水域に発生する蚊の幼虫個体群の絶対密度 (総個体数) の推定法。衛生動物 40 (3) 240.
  24. 茂木幹義・曾田貞滋 (1989) ネットアイシマカの発生量調査への存在頻度法の適用可能性。衛生動物 40 (3) 241.
  25. 山下伸夫・早川博文・岩根和夫・長谷川勉 (1990) 炭酸ガス蚊帳トラップの色と家畜外部寄生虫類の捕獲数との関係。衛生動物 41 (2) 172.
  26. 河原芳明・羽原政明・宮元謙二 (1994) BL ランプの劣化がライトトラップの捕虫数に与える影響。ペストロジー学会誌 9 (1) 33—35.
  27. 羽原政明・宮元謙二・橋村幸治 (1995) 昆虫類への刺激によるライトトラップの捕虫率の違い。ペストロジー学会誌 10 (1) 37-39.
  28. 平尾素一 (1999) 室内照明に誘引された昆虫のライトトラップによる捕獲率と落下虫体の分布。ペストロジー学会誌 14 (2) 9-12.
  29. 真喜屋清・岩尾憲三 (2001) 炭酸ガスと温熱を用いた新しい蚊誘殺器。衛生動物 52 (3) 241-247.
  30. 上村清・渡辺護・森岡斗志尚・折笠秀樹 (2003) ライトトラップによるコガタアカイエカ消長調査は週何回行えばいいか。衛生動物 54 (補遺) 36.
  31. 斉藤康英・服部順子・芽根士郎・ニ瓶直子・津田良夫・小林睦生 (2004) 酵母を用いた生物発酵により産生された炭酸ガスを利用した蚊の捕集について。衛生動物 55 (2) 138.
  32. 斉藤康英・服部順子・芽根士郎・ニ瓶直子・津田良夫・倉橋弘・小林睦生 (2004) 蚊成虫捕獲トラップのための二酸化炭素源:酵母による生物発酵法。衛生動物 55 (補遺) 48.
  33. 当間孝子・比嘉由起子・宮城一郎・岡沢孝雄・奥土春夫 (2004) 西表島における蚊捕獲のための4ライトトラップ法の比較。衛生動物 55 (補遺) 50.
  34. 津田良夫・倉橋弘・ニ瓶直子・小林睦生 (2004) ドライアイストラップとライトトラップの蚊成虫採集効率の比較研究。建築物におけるねずみ・害虫等の対策に関する研究報告書H15年度。79-82.
  35. 津田良夫・高木正洋・川田均 (2004) ドライアイストラップの誘引範囲と採集効率に関する研究。建築物におけるねずみ・害虫等の対策に関する研究報告書平H5年度。83-87.
  36. 津田良夫・斉藤康秀・ニ瓶直子・倉橋弘 (2004) 吸血性昆虫類捕獲トラップ用の簡便な二酸化炭素源の開発:酵母を用いた二酸化炭素発生装置。建築物におけるねずみ・害虫等の対策に関する研究報告書平H5年度。88-94.
- [コダニ]
1. Sasa,M, Matsumoto,K., Miura,A. & Takeda,U. (1961) Saturated saline floatation method, a new and simple technique for the detection of grain mites in stored food products and drugs. Jap.J. Exp. Med.31 (5) 341-349.
  2. 松本克彦 (1970) コナダニ類の繁殖条件の研究 X。コウノホシカダニの繁殖とヒポプス形成に及ぼす温度と湿度の影響。衛生動物 21 (4) 213-219.
  3. 大島司郎 (1971) 室内塵とダニ。佐々学編;衛生動物学の進歩第1集。P.203-223。啓学出版。東京。
  4. 大島司郎・中村譲・杉田和子 (1972) プレパレートトラップ法による新築団地のタタミに発生するダニの調査。衛生動物 23 (4)

- 309.
5. 大島司郎・中村譲・杉田和子 (1973) プレパレートトラップ法による室内塵性ダニの捕集効率。横浜衛研年報 12:45-82.
  6. 高岡正敏 (1986) 室内塵のダニ検査法。技術講座 46。アレルギーの臨床 6 (5) 58.
  7. Bronswijk, J.E.M.H. van (1986) Guanine as a hygienic index for allergologically relevant mite infestations in mattress dust.. *Exp. Appl. Acarol.* 2:231-238.
  8. Bronswijk, J.E.M.H. van, Bishoff, E., Schirmacher, W., Berrens, L. & Schober, G. (1986) A rapid house-dust allergen test: Preliminary results. *J. Med. Entomol.* 23 (2) 217-218.
  9. Lind, P. (1986) Enzyme-linked immunosorbent assay for determination of major excrement allergens of house dust mite species *D. pteronyssinus*, *D. farinae* and *D. microceras*. *Allergy* 41: 442-451.
  10. 木村忠雄・篠原能郎・石川瑞恵・青木阜 (1987) コナダニ分離法について。ペストロジー研誌 2 (1) 14—15.
  11. 森谷清樹 (1988) 室内塵からのダニ検出方法および単純で効率の高い方法の紹介。ペストロジー研誌 3 (1) 1-8.
  12. 夏原由博 (1989) 室内塵ダニ検出のためのふるい水洗法とその検出率。衛生動物 40 (4) 333-336.
  13. 上原弘三・奥田寿男・永田健二・小西英二・松村武男 (1990) 市販の専用集塵器具を用いた室内塵サンプル採取方法に関する検討。衛生動物 41 (2) 186.
  14. 夏原由博・今井長兵衛 (1990) カーペットのヒョウヒダニに対する掃除機を用いた採取法の信頼性 (英文)。環動昆 2: 61-67.
  15. 高岡正敏・山本徳栄・浦辺研一・中澤清明・久米井晃子・中山秀夫・桜井美佐 (1990) 室内塵からの簡便ダニ検査法について。埼玉衛研年報 24: 64-68.
  16. Konishi, E. & Uehara, K. (1990) Enzyme-linked immunosorbent assay for quantifying antigens of *Dermatophagoides farinae* and *D. pteronyssinus* (Acari: Pyroglyphidae) in house dust samples. *J. Med. Entomol.* 27(6)993-998.
  17. 太田伸生・小野俊朗・石井明 (1991) ヒョウヒダニ抗原量の免疫学的測定法。技術講座 88。アレルギーの臨床 11 (3) 54-57.
  18. 彭城郁子・伊藤秀子・須藤千春 (1991) 飽和食塩水浮遊法の改良による室内塵中のダニ検出について。衛生動物 42 (1) 43-46.
  19. 高岡正敏 (1991) ダーリング液遠心沈澱法及び簡便ダニ検査法 (メチレンブルー寒天平板法、MBA 法) による室内塵中のダニ検査結果、家庭環境の整備に関する調査報告書。21-28.日環センター。川崎。
  20. 橋本知幸・田中生男 (1991) ACAREX TEST キットによるダニ抗原量の測定。家庭環境の整備に関する調査報告書。32-36.日環センター。川崎。
  21. 橋本知幸・武藤敦彦・田中生男・安枝浩 (1992) ダニ抗原の半定量法としてのアカレックスの有用性の検討。家庭環境の整備に関する調査報告書。69-75.日環センター。川崎。
  22. 吉川翠・入江建久 (1992) ダニ検知シート法および吸引法による家屋内生息性ダニ類・ダニアレルゲン調査。環境管理 10 (1) 15-19.
  23. 高岡正敏 (1992) 室内塵からの簡便なダニ検査について。技術講座 108。アレルギーの臨床 12 (13) 56-58.
  24. Sakaguchi, M. Inoue, S., Yasuda, H., & Shida, T. (1992) Concentration of airborne mite allergens (Der I and Der II) during sleep. *Allergy* 47:55-57.
  25. 真喜屋清・小松雄幸・高岡正敏 (1995) メンブレンフィルターを用いた室内塵ダニ類の定量的検出の試み。衛生動物 46 (2) 218.
  26. 真喜屋清・小松雄幸・高岡正敏 (1995) ナイロンメッシュを用いた室内塵ダニ類の定量的検出法の改良。衛生動物 46 (補遺)

- 53.
27. Takeda, F., Toma, T., Miyagi I. & Kishimoto, M. (1995) Comparison of isolation rates of Tarsonemid mites in house dust between two mesh-size sieves Jpn. J. Sanit. Zool. 46(2) 145-149.
28. 真喜屋清・小松雄幸 (1996) 濾過法による室内塵ダニ類の定量的検出。衛生動物 47 (補遺) 61.
29. 武田富美子・当間孝子・宮城一郎 (1996) 採集時間とダニ収量の関係について。衛生動物 47 (2) 205.
30. 真喜屋清・小松雄幸 (1997) 改良ナイロンメッシュ濾過法による室内塵ダニ類の定量的検出の簡略化。衛生動物 48 (補遺) 51.
31. 橋本知幸・石井明 (1997) アレルギーに關与するダニの種類とその生態、検出方法。アレルギー科。4 (4) : 317-325.
32. 高岡正敏 (1999) 患者宅ダニ相の検査方法。技術講座 174。アレルギーの臨床 19 (12) 63-67.
33. 安枝浩 (1999) チリダニアレルゲンとその定量法。小屋・永倉編；気管支ぜん息に關わる家庭内吸入性アレルギー—現在の知見とその対策。35-43。メディカルレビュー社。東京。
34. 高岡正敏 (2000) わが国における室内塵ダニ調査と検出種の概観。日本ダニ学会誌。9 : 93—103
35. 高岡正敏 (2001) 住居内のダニ検査ガイドライン。住居衛生指導者マニュアル。8 pp. 埼玉県生活衛生課。
36. 亀井昭夫・野田桂子・鎌田誠・佐藤良明・関根厚司・小菅皇夫・小曾根恵子・金山彰宏 (2003) ツルグレン法を用いた室内塵からのダニ捕集の試み。衛生動物 54 (2) 207.
37. 館林十三男・西尾千恵子・高橋健一・上原弘三 (2003) ダスト量とダニアレルゲン量の比較からダニ対策を考える。19回ペストロジー学会大会抄録集 : 30.
38. 高岡正敏 (2003) 住居内のダニ検査ガイドライン。ペストコントロール技術者更新時講習テキスト。45-60。日ペ協。.
39. 田中生男・橋本知幸 (2004) ダニ汚染度簡易測定キットの精度評価。厚労省科研費。建築物におけるねずみ・害虫等の対策に關する研究報告書H15年度。66-73.
40. 橋本知幸 (2004) 新しいダニ調査法と防除法の将来。48回環境衛生大会抄録集。96~99.
- [ハエ]
1. 大森南三郎 (1955) イエバエ撲滅効果の判定方法。環境衛生 5 (10) 10.
2. 大森南三郎・末永敏・大和茂久・福田通男・谷川十三生 (1958) 蠅類の撲滅効果判定の方法について。衛生動物 9 (2) 89.
3. 平社俊之助 (1962) イエバエ成虫の駆除効果判定法に關する一考察。衛生動物 13 (1) 70-82.
4. 平社俊之助 (1964) 殺虫試験法の解説。イエバエ成虫の実地試験効果判定法について。環境衛生 11 (11) .
5. 平社俊之助 (1965) 殺虫試験法の解説。イエバエ成虫の実地試験、効果判定値を左右する要因について。環境衛生 12 (2) .
6. 今井長兵衛 (1989) 大阪市環境科研報告 51 : 7-10
7. 今井長兵衛 (1992) ハエ類の相対密度推定法、とくにハエトリ紙のイエバエ捕獲効果について。環境管理 10 (1) 10-14.
8. 末永敏・倉橋弘 (1994) ハエの生態調査用ベイトトラップと羽化トラップの改良型について。衛生動物 45 (2) 195.
9. 武藤敦彦・橋本知幸 (2004) 建築物内における昆虫等のトラップによる調査法の検討ならびに小バエおよび蚊類の発生動態調査。建築物におけるねずみ・害虫等の対策に關する研究報告書H15年度 95-104.
- [害虫全般]
1. 長田泰博・林滋生・斉藤金一郎・緒方一喜 (1957) 衛生害虫等の population 推定について 1。実験方法及び結果。衛生動物 8 (2)

- 78.
2. 緒方一喜 (1960) 害虫駆除の効果判定法。生活と環境 5 (11) 7-13.
  3. 鈴木猛他 (1960) 座談会；害虫駆除の効果判定について。生活と環境 5 (11) 14.
  4. 衛生害虫・ネズミ駆除効果判定の実施基準。生活と環境 7 (6) 49-54、1962.
  5. 衛生害虫・ネズミ駆除効果判定実施基準その2。生活と環境 7 (7) 43-54、1962.
  6. 衛生害虫・ネズミ駆除効果判定実施基準その3。生活と環境 7 (9) 49-52、1962.
  7. 衛生害虫・ネズミ駆除効果判定の実施基準。衛生害虫・ネズミ駆除効果判定実施基準の制定について (完)。生活と環境 7 (11) 51-55、1962.
  8. 中尾清孝 (2001) 商品クレームと捕獲頭数より判断する被害許容限度と要防除密度算出事例。ペストロジー学会誌 16 (1) 53-59.
- [単行本]
1. 厚生省編輯：衛生害虫駆除教程。62pp. 日本公衆衛生協会。東京。1952.
  2. 加藤陸奥雄著：蚊の生態。144pp.DDT 協会。東京。1955.
  3. 佐々学著：ダニ類—その分類・生態・防除—。486pp. 東大出版会。東京。1965.
  4. 田中亮著：ネズミの生態。169pp. 古今書院。東京。1967.
  5. ねずみ駆除協議会編：ねずみ駆除ハンドブック。210pp.日環協。川崎。1967.
  6. 厚生省監修：衛生動物検査指針。300pp.日環協。川崎。1971.
  7. 佐々学・栗原毅・上村清著：蚊の科学。312pp. 北隆館。東京。1976.
  8. 辻英明編：ゴキブリの定住、潜伏、摂食に関する研究。146pp. 環境生物研究会。京都。1979.
  9. 佐々学編：ダニとその駆除。175pp. 日環セ。川崎。1984.
  10. 厚生省監修：居住環境におけるダニ対策ガイドライン。147pp. 日環セ。川崎。1993.
  11. 池庄司敏明著：蚊。246pp. 東大出版会。東京。1993.
  12. ねずみ・害虫等の調査と防除基準。21pp. 日ペ協。東京。2001.
  13. 建築物におけるIPM仕様書—ネズミ・害虫等の調査と防除基準。40pp.日ペ協。東京。2003.
- [ 研究報告書 ]
1. 居住環境衛生害虫・不快害虫等安全対策調査研究報告書。(第1部) 居住環境の衛生害虫等指針策定。(S60年度厚生省委託) 85pp.日環セ。川崎。
  2. 居住環境の衛生害虫等指針策定事業総合報告書。(S60・61年度厚生省委託) 67pp. 日環セ。川崎。
  3. ねずみ、衛生害虫駆除に係る環境の維持管理基準設定および芳香・消臭剤等の安全対策に関する調査研究事業報告書。(第1部) ねずみ、衛生害虫駆除に係る環境の維持管理基準策定に関する調査研究。(S62年度厚生省委託) 64pp.日環セ。川崎。
  4. ねずみ、衛生害虫駆除に係る環境の維持管理基準設定および家庭用シミ抜き剤の安全対策に関する調査研究事業報告書。(第1部) ねずみ、衛生害虫駆除に係る環境の維持管理基準設定に関する調査研究。(S63年度厚生省委託) 67pp.日環セ。川崎。
  5. ダニ問題調査研究報告書(S63年度厚生省委託)。116pp 日環セ。川崎。
  6. ねずみ、衛生害虫駆除に係る環境の維持管理基準設定および家庭用塗料及び塗料剥離剤の安全対策に関する調査研究事業報告書。(第1部) ねずみ、衛生害虫駆除に係る環境の維持管理基準設定に関する調査研究。(H元年度厚生省委託) 40pp.日環セ。川崎。
  7. ダニ問題調査研究報告書(H元年度厚生省委託)。87pp 日環セ。川崎。
  8. 厚生労働科学研究補助金；がん予防等健康科学総合研究事業：建築物におけるねずみ・害虫等の対策に関する研究。H15年度総括・分担研究報告書。139pp.2004.